

## 第2回 I C P C フォーラム「今治を語ろう」～踏み出した一歩～

基調講演 講師：野崎 隆一氏（NPO神戸まちづくり研究所 理事事務局長）

### 街の再生に必要なもの

協働や参画とかという言葉が10年くらい前から言われた背景は今という時代は大きな物語が終わって小さく多様な物語が始まったという時代の変化が起こっています。大きな物語は戦災後、国として経済を立て直す必要があるという大きな目標があって個人も自分が働く事が国の復興に繋がるんだという大きな視点がありました。それが、復興が終わって、繁栄し、バブルが弾けて経済の停滞期に入ってきています。今はそういった大きな物語が終わって先が見えない状態になっています。いろんな地域で自治会や地域の組織を担っている方々は皆さんが何を考えているかわからないという状態です。個人個人で様々な価値観を持っていて、地域全体を考えて活動するような状態ではない。悪く言えば身勝手な人が多くなり個人の価値観が多様化してきて自分のやりたい事がそれぞれ違ってきています。大きな目標を掲げて何かしようとしてもやりづらくなっています。ハードを作ろうということになってもなかなかすんなりいかなくなっておりまます。そういう時代だからどうすればいいのかということで、協働や参画が言われてきました。大きい物語があったときは行政が総合計画を立てて、10年後にこうなっているから今こうしているんだというのが明確でした。ところが、今は10年後、20年後の今治がどうなっているかを明確に言える人がいない。どういうことが必要かという多様な価値観を持った人達が互いに考えながら集約していくことが必要になってきます。

協働とは行政と市民が役割分担することではありません。行政がプランニングして市民が実行していくことはありません。我々も円卓会議をしながら行っていますが、市民側が一番大事にしたいことはプロセスですね。行政がこういうことを遂行したいという時にはこんなプロセスのデザインをしてこういうステップを踏むという事を共有して私も神戸市民参画推進局の局長と座談会での話では行政は予算を使わないといけない立場なので計画通りの遂行の必要がある中で我々市民側は趣旨が貫徹すれば形は変わってもいいではないか、むしろ市民といろいろ議論した結果修正でもいいのではないかという議論をしましたが、多様な価値観を持った人が集まる場合でもプロセスを重視して共有していくと段々集約していきます。こういうまとまっていくプロセスを大事にしていきたい。

今日のワークショップもプロセスを経ながら共有のステップを経て全体としてはこういうイメージだということを共有することの一環としてワークショップに臨んでいただけたらと思います。

大きな物語から小さな物語への転換と人口減少社会の始まりでもあります。以前は人口も増え、税収も増える前提で様々な計画を立てられていましたが、2年ほど前から人口減少に転じています。そうなってくると全てが衰退や消滅などネガティブな判断しか出来なくなります。大事な事は減少局面になった時に物差しを変えないといけません。それをしないと未来が見えなくなる。成長から成熟へ、消費から循環へ活性化から持続可能な社会へという変更が求められます。I C P C大きな活動をされていますが、新しいブランドはすぐに作れるものではありません。無理に作ったブランドは支える力がないと衰退していきます。それよりも小さな活動をたくさん起こして繋げていく方が大事だと思います。I C P Cに集まったデータがそれぞれのフィールドで小さな活動を起こしていく。それがI C P Cにネットワークとして繋がっていくという事がないと地道な活動として実っていきません。I C P Cはスタートしたばかりですのでこれからどう積み重ねていくかです。楽しくなければ続きません。義務感やこうあるべきだとかの大所高所からでは続きません。逆に今治に外から人を集めようとするのも大事ですがそれだけに集中しないで身近なところで生活を楽しんでいくとその姿が外から見た時の魅力になるという組立方も必要でないかと思います。I C P Cとして大きな目標を結集する前にメンバーが今すぐにも出来る事を見つけて小規模であるが多様な活動をたくさん作り出すことが必要だと思います。地域の中に活動の資源をたくさん増やしていくことですが、新しく作らなくてもネットワークを繋いで話合っていく中でヒントが見つかり発見になると思います。小さな活動の中で節目ではグループの中で確認を行う。確認すると達成感が生まれます。その達成感を仲間と共有することでプライドが生まれます。